



Data

監督・脚本: キム・ヨンファ

出演: ハ・ジョンウ/チュ・ジフン
 /キム・ヒャンギ/イ・ジョ
 ンジェ/キム・ドンウク/
 D.O./チャ・テヒョンマ・
 ドンソク/ナム・イル/チョ
 ン・ジフン/チョン・ヘギュ
 ン/イ・ギョニョン/チャ
 ン・グァン/キム・ヘスク/
 キム・スアン/キム・ハヌル
 /オ・ダルス/イム・ウオニ
 /チョ・ハンチョル

■■■ショートコメント■■■

◆『キネマ旬報』6月下旬号 (32、33 頁) によると、「神と共に 第一章: 罪と罰」は 1441万人、同時製作の続篇「神と共に 第二章: 因と縁」は1227万人で、韓国ではそれぞれ歴代3位と14位になり、両作品合わせると、歴代1位の「バトル・オーシャン 海上決戦」(13) が持つ1761万人を軽く抜き、韓国映画史上 No.1 ヒットという大記録を打ち立てたようだ。

◆そんな本作を、「こりゃ必見!」と思い、シニア料金を払って鑑賞。もともと、私のメインは同じ日に見た『安市城 グレート・バトル』(18年) だったが、本作にも大いに期待をかけていた。そもそも、第1章の「罪と罰」とは何とも大層(?) だが、第2章の「因と縁」はいかにもアジア的・・・? さらに、詳細は現在明らかにされていないが、第3章、第4章を同時製作という報道がなされ、映画ファンの間ではさらなる関心が高まっているようだ。しかして、本作の出来は?

◆「神と共に」というタイトルや「罪と罰」というサブタイトルを見ると「本作はキリスト教の映画!」と錯覚しそうだが、そうではなく、本作は冥界ファンタジー・アクション! チラシには、「アメリカ・カナダ・香港・台湾など、世界中で驚異的な大ヒット!」と書かれ、次のように紹介されているが、そりゃ一体ナニ?

誰も覗いたことのない超自然の異世界—冥界。
 その人類最大のミステリーを解き明かす、
 究極の冥界エンタテインメントがついに誕生！
 想像をはるかに超えたイマジネーションで、
 壮大な地獄世界を映像化！現世での「罪と罰」が問われる
 “地獄”めぐりの旅が、いま始まる！！

◆本作冒頭、火災現場で奮闘する消防士キム・ジャホン（チャ・テヒョン）の姿を見れば、本作は、『タワーリング・インフェルノ』（74年）やその21世紀型韓国版である『ザ・タワー 超高層ビル大火災』（12年）（『シネマ 31』169頁）のようなパニック・スペクタクルのようにも思えたが、そこに突然、冥界の使者である、カンニム（ハ・ジョンウ）、ヘウォンメク（チュ・ジフン）、ドクチュン（キム・ヒヤンギ）が登場してくると、テイストは一変！俄然、冥界ファンタジー・アクションの世界に入っていく。ストーリーの進行役は冥界の使者ドクチュンで、彼女の説明によると、「人は亡者になると、生まれ変わるため7つの地獄で裁判を受けなくてはならない」そうだ。しかして、キム・ジャホンのさまざまな裁判の行方は・・・？

◆冥界は誰も覗いたことのない超自然の異世界だが、それは地獄も同じ。しかし、芥川龍之介の『杜子春』を読んだ人なら誰でも、地獄とはこんなものというイメージを持っているはずだ。また、日本人の子供は、誰も小さい時に両親から「ウソをついたら閻魔大王様に舌を抜かれる」と言われたことがあるから、閻魔大王のイメージも持っているはずだ。

しかして、本作が描く「生まれ変わるための7つの地獄」とは・・・？それはチラシに
よれば次のとおりだ。





◆私は、『シネマから学ぶ法律』の出版がかねてからの念願だったが、2019年3月にやっと『“法廷モノ”名作映画から学ぶ生きた法律と裁判』を完成させることができた。そこでは、本格的な「法廷モノ」の名作以外に、「幽霊は証人になれるの？その証言の価値は？」をテーマにした『ステキな金縛り』（11年）（『シネマ27』191頁）や、「法廷バトルゲームでは「異議あり」の連発だが・・・」をテーマにした『逆転裁判』（12年）（『シネマ28』未掲載）等の邦画も「面白い切り口の法廷モノにも注目！」として収録した（『“法廷モノ”名作映画から学ぶ生きた法律と裁判』258頁、267頁）。また、韓国映画では、『依頼人』（11年）（『シネマ29』184頁）や『弁護人』（13年）（『シネマ39』75頁）のような本格的法廷モノの他、『インディアン・サマー』（01年）（『シネマ19』55頁）や『ユア・マイ・サンシャイン』（05年）（『シネマ11』257頁）等を収録した。

しかして、本作に登場する7つの地獄では、カンニム、ヘウオンメク、ドクチュンを弁護人として、消防士のキムは、変成大王、初江大王、そして閻魔大王たちの裁判を受けることになる。こうなると、『シネマから学ぶ法律』の続篇を出す時は、本作で見た7つの地獄での裁判模様も収録しなくちゃ・・・。

◆『キネマ旬報』6月下旬号の32～33頁によれば、本作の設定がRPG（ロール・プレイング・ゲーム）の世界とされ、ゲーム感覚で楽しめるところが大ヒットの原因だと解説されているが、確かにその通り。これなら、今ドキの若者はゲーム感覚で次々と地獄巡りを楽しんでくれるから、いくらでも続篇が作れそう。また、チラシによると、第1章「罪と罰」で消防士キムの弁護人を務めたカンニム、ヘウオンメク、ドクチュンらは、第2章「因と縁」では弟スホン（キム・ドンウク）のための弁護に奮闘するらしいから、その展開が次の楽しみになる。すると、その次も、さらにその次も・・・。

そう考えると、チラシの「世界中で驚異的な大ヒット！」の文字も決して誇張ではない

ことがわかるが、さてその出来は・・・？『キネマ旬報』6月下旬号の「REVIEW 日本映画 & 外国映画」では星3つ、4つ、3つだったが、私の評価でもその出来はイマイチで、星3つ・・・。

2019（令和元）年7月11日記